

第2回小牧市食育推進会議 会議録

日時：平成31年2月22日（金）午前10時00分～
場所：小牧市役所東庁舎4階本会議用控室

○出席者

【食育推進会議委員】

長島会長、青山委員、伊藤委員、河和委員、倉知委員、山口委員、
小島委員、藤岡富士江委員、近藤委員、若山委員、野田委員、愛野委員

【事務局】

余語課長、余語係長、中原

○欠席者

中東副会長、菱田委員、佐々木委員、藤岡祥子委員、高橋委員、小久保委員、
福澤委員、丸藤委員、小澤委員

○議題

- 1 平成30年度小牧市食育推進活動の報告及び来年度の小牧市食育推進活動について
- 2 野菜摂取量の増加に向けた取り組みについて

○配布資料

- ・平成30年度第2回小牧市食育推進会議次第
- ・平成30年度食育に関する取り組み一覧
- ・第3次小牧市食育推進計画（PR版）
- ・平成30年度塩分濃度・野菜摂取量調査

○傍聴者

なし

【会議録】

(司会者)

- ・お忙しい中、平成 30 年度第 2 回小牧市食育推進会議にご出席いただき、お礼申し上げます。
- ・当会議は、会議公開である。会議開催のお知らせを事前にホームページに掲載したところ、本日の傍聴者は 0 名だった。
- ・小牧市地域活性化営業部農政課長の余語より、あいさつを申し上げます。

(余語課長)

- ・出席の方が少ないが、よろしくお願ひ申し上げます。
- ・新聞で毎日のように豚コレラが取り上げられている。
- ・愛知県では豚コレラの影響で豚肉の値段が高騰している。
- ・農政課では豚コレラやイノシシの対策を行っている。檻でイノシシを捕まえて、猟友会が殺処分している。現在はまだ事例が無いが、イノシシの血をスポイトで採って家畜保健衛生所で検査することになっている。
- ・小牧市では副市長を頭とした防疫対策会議を立ち上げて、情報交換を行っている。
- ・もし小牧市で豚コレラが出た場合、人間にはうつらないと言われているが、教育委員会などと協力して、給食の豚肉に対する心配の払拭等が必要となる。
- ・最後になるが、今日は忌憚のないご意見をいただいて会議を進めていきたいと思う。

(司会者)

- ・小牧市食育推進会議の長島会長から、あいさつをいただく。

(長島先生)

- ・大学では卒論が終わり、学生は管理栄養士の国家試験に向けて、追い込みを行っている。
- ・私のゼミの学生は、卒論で今年は特に食事調査を行っていた。
- ・結果はこの会議で示されている問題と同じで、野菜が取れていないこと、塩分摂取量が多いことが挙げられた。また、意外と特に若い人の食事量が少なく、エネルギーが少なかった。
- ・食事調査をやってみてどうだったかたずねると、調査をやること自体が食生活の意識につながった、野菜の摂取量について、自分はずっと食べていると思っていたが、実は全然足りていなかった、という意見があった。
- ・自分の食事について知る機会は少ないが、そういった機会があることで食事に対して意識を持ってもらえると思うので、地道な活動は重要である。
- ・今年の活動を報告していただいて、来年につなげていきたいと思う。

(司会者)

- ・議事に入る前に、委員の変更があったので報告する。
- ・保健センターの福澤委員。本日は欠席のため、名前だけの紹介とさせていただきます。
- ・以降の議事進行について、長島会長に願ひする。

(長島会長)

- ・本日の会議は、定員 21 名に対し 12 名の出席をいただき、過半数に達しているので成立している。
- ・次第にそって、進めさせていただく。
- ・はじめに、議題（１）平成 30 年度小牧市食育推進活動の報告及び来年度の小牧市食育推進活動についてである。今年度の食育に関する取り組みについては、事前に委員から事務局に報告されており、本日、手元に資料として配布されている。
- ・資料の説明とともに、来年度の食育に関する取り組みについても発表していただきたい。
- ・資料順に説明をお願いします。

(事務局)

- ・第 3 次小牧市食育推進計画 P R 版というお手元に配布しているチラシを、会議やイベントで配布した。
- ・市民菜園事業として、藤島と池之内の 2 箇所市民菜園を行っており、市民の方に畑を貸し出している。藤島市民菜園の利用者数が減少していることが課題である。
- ・地元野菜の販売ということで、蔬菜研究会の方が作っている野菜と一緒に販売している。6 月のバラ・アジサイまつり、10 月の小牧市民まつり、11 月の農業祭で販売している。
- 課題は会員が高齢化していることである。
- ・毎月 19 日が食育の日となっているため、庁内職員用パソコンに P R の P D F を掲載している。
- ・食育ホームページの活用について、次に説明する生活改善実行グループとの料理教室で使ったレシピや食育に関する情報を掲載している。
- ・小牧市生活改善実行グループと連携して、料理教室を 9 月と 1 月に行った。中部大学の学生さんが考案したレシピを使って、料理教室を行った。
- ・7 月は桃、8 月はぶどう・いちじく・梨、11 月は農産物全体の品評会と即売会を行った。
- ・いきいきこまきでの他団体との連携として、食育コーナーでの食育についての展示や蔬菜研究会と野菜の販売を行った。
- ・食品ロスの削減について、3010 運動のチラシを会議やイベントで配布した。
- ・今年度新規の事業として、アレルギーに関する講座を開催した。クリスマスローズという団体と協働で、アレルギーのお話会を開いた。
- ・来年度は基本的に同じ事業を行うが、アレルギーの講演会のみ未定である。

(長島会長)

- ・第 3 次小牧市食育推進計画 P R 版のチラシは何枚配布したのか。

(事務局)

- ・きちんと把握していないが、何百枚単位は配布している。
- ・年度当初にも伝えたが、食育推進計画のチラシ、3010 運動・食品ロス削減のチラシが必要であれば、みなさまにもお渡しする。

(長島会長)

- ・実際に使い回しはあったか。

(事務局)

- ・J Aや環境対策課などと一緒にイベントで配布した。
- ・そのほかにも、子ども食堂に依頼して置かせてもらうなどしている。

(長島会長)

- ・なかなか食育推進計画が一般の人に伝わっていないように感じるので、チラシを配布することで伝われば良いと思う。
- ・続いて、青山委員から説明をお願いします。

(青山委員)

- ・味岡小学校で稲作体験を行っている。お米の栽培を行うことで農業に関心を持ってもらえればと思い、実施している。
- ・三ツ渚小学校でもち米の栽培をしている。地域の方、保護者の協力のもと、実施している。
- ・三ツ渚小学校、北里小学校、米野小学校、陶小学校に野菜の苗を配布し、プランターを用意していただいて栽培体験をしている。
- ・篠岡小学校と陶小学校で桃の収穫体験をしている。陶小学校は今年度から農家に変更になったが、引き続き収穫体験が行うことができた。
- ・ひまわり幼稚園がサツマイモの収穫体験を行った。J Aの子会社が栽培したものを収穫してもらった。
- ・本庄小学校、篠岡小学校でJ A女性部と大豆栽培・豆腐作り体験を行った。大豆の収穫の大変さや豆腐作りについて学んでもらっている。
- ・小牧中学校でJ Aの圃場で収穫された桃を使った調理実習を行っている。
- ・これらの活動を継続的に行っていきたいが、継続が難しい点も出てきている。

(長島会長)

- ・なぜ継続が難しいのか。

(青山委員)

- ・助成の対象となるものとならないものがある。極力、継続できるように調整している。
- ・農家の協力が得られれば継続できるが、なかなか難しい部分が出てきている。
- ・陶小学校の桃収穫体験は、近隣の農家さんに対応していただけたので活動ができたが、それが今後難しくなると、代替地や農家の選定が大変になる。農家も高齢になってきているので、そのあたりをうまく農協で対応していきたいと思う。

(長島会長)

- ・高齢化など、みな同じ問題を抱えているように感じる。

- ・続いて、伊藤委員から説明をお願いする。

(伊藤委員)

- ・陶小学校の前の道を挟んだ向こう側に畑があり、長い間桃の収穫体験をさせていただいていたが、今年度からその畑の隣でやらせていただくことになった。学校から近い場所のままなので、安全に体験ができ、桃のふくらみなどを担任と子どもたちでこまめに確認することができる。
- ・JA陶支店のふれあい委員と、陶小学校の2年生がJAの畑でサツマイモの栽培、収穫体験をしている。
- ・学校における農業体験の問題点としては、都市部の学校ではできず、実施できる学校が限られていることが挙げられる。
- ・学校教育における健康教育・食育指導について、食育に関しては毎日の給食での指導が中心になる。
- ・学級活動の年間計画の中に食育に関する活動が入っているため、各担任が指導をしている。
- ・給食委員会を持っている学校や、年1、2回開かれる学校保健委員会で食育を取り上げる学校もある。
- ・学校給食を通じたコミュニケーションの促進について、楽しく給食が食べられるように担任が心がけている。
- ・市内の栄養教諭や学校栄養職員から、給食の献立に合う放送原稿を学校に送っていただける。その原稿を放送委員が読み上げることもしている。
- ・学校給食を通じた食育活動の普及啓発として、栄養教諭が愛知の給食の日に地産地消のメニューを出して、子どもたちに知識を与えている。
- ・PTA・他機関との連携について、PTAでは給食試食会がある。
- ・入学説明会のときに食育パンフレットを配布している。栄養や食物アレルギーの対応などが記載されている。
- ・その他の問題点として、栄養教諭や学校栄養職員は各給食センターに2人ずつ設置されており、食育指導を行っているが、熱心な学校とそうでない学校があった。そのため、年間計画の中にあらかじめ食育指導を位置づけておくと良いと思った。

(長島会長)

- ・来年度の年間計画は3月ぐらいに立てられるのか。

(伊藤委員)

- ・陶小学校だと4月の最初の職員会で決める。他の学校と食育指導が重なるといけないので、給食センターと担当の先生で調整を行う。
- ・「食育指導をやります」ということを栄養教諭から学校へもっと発信してはどうかと提案した。

(長島会長)

- ・食育指導をやるということを発信した方が、年間計画の中に入れやすいのか。

(伊藤委員)

- ・入れやすいと思う。

(長島会長)

- ・大学生が指導に行くことは可能か。

(伊藤委員)

- ・教育実習にも来てくださっているし、学習チューターのような形でもできるのではないか。

(河和委員)

- ・栄養部会から学校にリーフレットをお渡しして、配布してもらっている。担任の先生から一言付け加えて配布してもらおうように書いた紙を添えて、リーフレットを渡している。
- ・読まずにスルーされてしまうのを減らすため、栄養教諭の先生から配布できないか聞いたが、常駐しているところでは配布できるが、他の学校だと難しいと言われた。また、学校により温度差もあるとのことだった。
- ・保健センターの栄養士から配布することができるか聞いたところ、教育委員会を通して言ってもらえればできるかもしれないとのことだった。
- ・保健センターや栄養部会のメンバーが行ってお話しすることは難しいのか。

(野田委員)

- ・実施する内容を学校教育課に言っていただければ、学校教育課から各学校に投げかけて、希望のあった学校でやってもらうということは可能である。

(河和委員)

- ・学校教育課に話を持っていけば可能ということか。

(野田委員)

- ・ただ、学校の内情によって、受けられる学校と受けられない学校が出てくる。
- ・時期的な問題や、栄養教諭や学校栄養職員との兼ね合いもある。

(河和委員)

- ・お金をかけて作って配布しても、家庭で目に触れないままくずかごに行ってしまうと、もったいない。
- ・自宅で保護者と子どもと一緒に読んでもらうことで、ひとつの話題提供となり刺激になると良い。
- ・なんとかかごみにならないようにどうしたら良いのか考えている。

(野田委員)

- ・学校の配布物について、4月、夏休み前、冬休み前などはとても多く、配るだけで何十分もかかってしまう。

・保健センターのカードなどの配布物についても、説明文をつくっていただき、配布時に説明してもらえないかということを担当に伝えている。

(河和委員)

・ 私たちもそのようお願いしている。

(野田委員)

・ 時期を考えて、配るタイミングを設定していただきたいと思う。

(河和委員)

・ 配布の少ない時期、健康診断を受けた時などに配布したい。
・ 栄養士が学校に行って説明するなど、一歩踏み込んでやりたいと思う。

(野田委員)

・ 栄養士が学校に来ていただければ専門的なお話をしていただける。
・ 説明する時間を設けたいということも含めて、学校教育課に話をしていただきたいと思う。

(河和委員)

・ 次の会議で今の話を伝える。

(長島会長)

・ 続いて、河和委員から説明をお願いします。

(河和委員)

・ 「私たちの健康は私たちの手で」というスローガンのもと活動している。
・ 大城小学校で家庭科調理の補助をした。
・ 夏におやこ食育教室をした。家だと保護者が口や手を出してしまい、子どもが包丁を握る機会が少ないため、保護者と子どもが分かれて調理を行った。子ども1人に対して、職員が1人付いて、けがをしないように見守りながら行った。
・ 子どもが楽しそうだった、野菜嫌いの子どもが野菜サラダをおかわりしていてびっくりした、との声があった。
・ 自分で作ったものを食べるのは良いことである。野菜も自分で育てて調理して食べるのが良いと思う。
・ がん撲滅地区健康展では、昨日食べた野菜を手量りして、昨日1日どのくらい野菜を食べたかを把握してもらおう。そのときに食育推進計画のチラシを配布した。
・ 生涯骨太クッキングについて、年配の方を対象に、乳製品を使った料理をつくった。みそ汁を作って持ってきてもらい、塩分を測定した。
・ 歯ピカピックへの参加について、野菜の手量りと、噛むことについての絵本の読み聞かせをした。
・ 歯ピカピックと農業祭でも、食育推進計画のチラシを配布した。

- ・農業祭でも手量りをやっている。歯ピカピックのときもそうだったが、朝食で野菜を食べている人が少ない。
- ・家で畑をもっている年配の人が、お嫁さんに家で採れた野菜を使ってご飯を作るよう言っているから野菜をたくさん食べていると思うと言っていた。しかし、緑黄色野菜を全く摂っておらず、白菜などの白い野菜が多かった。1、2品くらい色の濃い野菜を足した方が良いと伝えた。
- ・野菜の値段が高いため、毎日もやしを食べているという方もいた。値段が下がってみなさんが買いやすくなると良いと思った。
- ・ヘルスサポーター21 事業で北里中学校と応時中学校に行った。
- ・北里中学校では、夏にゴーヤが毎年たくさんできるので、ゴーヤを使ってほしいと言われた。ゴーヤの料理を探したが、今年度はゴーヤがとれず、学校の先生に買いに行ってもらった。
- ・応時中学校は豚肉を使って料理を作った。
- ・シニアカフェで低栄養予防の教室を行った。みそ汁の塩分濃度調査を行った。
- ・家庭訪問でみそ汁の塩分濃度調査を行った。
- ・パパママ教室に来る若い世代に対しても、みそ汁の塩分濃度調査を行った。
- ・広報こまきに「いきいきレシピ」を掲載した。
- ・ふれあいサロン、いきいきサロンで高齢者向けのレシピを提供や調理の補助をした。
- ・配布した塩分濃度・野菜摂取量調査の資料については、全部の集計はしておらず、一部だけの結果である。
- ・パパママ教室での調査について、みそ汁の塩分濃度測定結果の受付数が55になっているが、これはパパママ教室に朝いらっしゃったときに、参加者のみそ汁の濃度をその場で計測した数である。アンケートの回収枚数の34は、教室の中で書いてもらって回収できた数であるため、少し数字がちがっている。
- ・1日に野菜を何皿食べるかという項目について、朝食で0皿の人が28人いた。
- ・昼食は0皿が13人、1皿が15人だった。ただ、1皿は70グラムで、摂取している量はとても少ない。外食が多いことなどが原因かもしれない。
- ・もう1枚の資料については、何年間も継続で調査している人も含まれている。パパママ教室よりも朝食での野菜摂取量が多い。年に1回書いてもらうだけで野菜摂取量などを意識していただける。

(長島会長)

- ・野菜摂取量調査について、朝食では0皿でも、昼、夕食では野菜を摂取しているということで良いか。

(河和委員)

- ・そうである。

(長島会長)

- ・1日ずっと食べていない、ということではないのか。

(河和委員)

- ・昔はほとんど食べないという方が何人かいた。
- ・パパママ教室では、妊娠中で食事に気を遣っていると思うが、それでも野菜を食べていないというのが現状である。

(長島会長)

- ・パパママ教室にしても、朝は0皿だが、1日だとどこかでは野菜を摂っている。でも、2、3皿しか摂れていないということか。

(河和委員)

- ・夕食で3皿以上食べた人はいるが、こういう人はお昼などでも食べていると思われる。
- ・たんぱく質に意識がいて、野菜が摂れていない人もいる。
- ・逆に、野菜をたくさん摂っているが、たんぱく質を摂れていない人もいると思う。

(長島会長)

- ・続いて、倉知委員から説明をお願いします。

(倉知委員)

- ・第3次小牧市食育推進会議PR版のチラシについて、いきいきこまきの環境フェアで配布している。
- ・廃食用油の回収について、地球温暖化対策チーム協議会に加盟している光ヶ丘小学校、小牧小学校、小木小学校の3校が回収している。市では各市民センターで回収している。
- ・廃食用油の有効活用については、環境対策課から説明する。
- ・回収活動について、知らない人がいることが課題である。
- ・小牧市女性の会では、リサイクルプラザで油を使ってせっけんを作っている。以前はディーゼル車に使っていた。
- ・菜の花プロジェクトについて、地球温暖化対策チーム協議会に加盟している光ヶ丘小学校、小木小学校の2校で菜の花を育て、唐箕体験などを行っている。
- ・菜の花フェスティバルを4月に開催する予定である。
- ・菜の花プロジェクトについて、小牧市女性の会が中心で行っているが、会員の高齢化が課題である。
- ・菜の花の種の収穫量が少なく、食用に使うほど油が取れない。
- ・光ヶ丘小学校の生徒が修学旅行で法隆寺を訪れた際に、菜の花から取れた油を持って行ってもらっている。
- ・法隆寺の近くの人で油を納めたいという方もいるようだが、小牧市から持っていったものを優先的に使っていただいていると思っている。
- ・なかなかお金にならない事業だが、環境問題を考えながら、子どもの体験を大事にして、ほそぼそと行っている。

(長島会長)

- ・スタッフ側の高齢化についてお話されていたが、参加している子どもたちはたくさんいるのか。

(倉知委員)

・学校の子どもは学年が決まっているのでたくさんいる。しかし学校の時間的な問題があり、種をまいて収穫をして、油を絞る体験をするというのを少しやるぐらいしかできていない。

(事務局)

・次の順番について、資料順に発表すると説明したが、次の発表は私立幼稚園連合協議会の山口委員になる。

(山口委員)

- ・小牧市に幼稚園が10園あるが、代表して私の幼稚園の取り組みについてお話する。
- ・さつまいも、たまねぎ、だいこん、にんじん、じゃがいもを種から育てている。
- ・以前は手作りパーティーの際に、育てたレタスなどを食べていたが、現在は衛生面の関係で幼稚園では食べられず、家に持ち帰ってもらっている。
- ・遊戯「マスカット」「野菜シスターズ」の踊りを生活発表会で披露した。さまざまな野菜に扮することで、楽しんで野菜に親しみを持つことができている。
- ・食育の絵本や紙芝居は、幼稚園にあるものを読んでいる。
- ・野菜作りについて、毎回同じ方に指導してもらっている。野菜に対して子どもたちは興味津々で、大切に種を植えるなどしている。
- ・園だよりも食育のコーナーを入れている。主に果物や野菜を紹介している。
- ・幼稚園で調理ができなくなったのがさみしい。手作りパーティーも去年の夏から一切調理をしていない。
- ・餅つきをやっても、ついた餅は食べられない。

(長島会長)

・幼稚園で調理をしない、餅つきでついた餅を食べないことについて、保護者からの要望でもあるのか。

(山口委員)

- ・園での方針である。もし子どもたちに何かあった場合に困ってしまうためである。
- ・今まではそのようなことは無かった。

(野田委員)

- ・0-157が出てから、学校も給食で生野菜を提供できなくなった。

(山口委員)

- ・夏野菜なども食べさせていたが、今は食べさせられない。
- ・お泊り保育でいつもは食べていたが、今年は持って帰ってもらった。

(長島会長)

- ・ そのようにしかできないのは残念である。
- ・ 続いて、小島委員に発表をお願いする。

(小島委員)

- ・ 市民講座を開設し、年2回やっている。
- ・ 若い人の野菜摂取量が少ないため、若い人のアイデアでたくさん野菜の摂れる料理はないか検討し、中部大学の先生をお願いして、学生と一緒に料理教室をすることになった。
- ・ 地産地消で新鮮野菜のおいしさを感じていただき、たくさん食べていただくことを目的としてやっている。
- ・ 教えられることは何でも教えられるが、高齢になると広範囲での活動がだんだん難しくなっていく。

(長島会長)

- ・ いきいきこまきで飾り巻きずしの展示を行っているか。

(小島委員)

- ・ 行っている。

(長島会長)

- ・ 続いて、藤岡委員から説明をお願いする。

(藤岡委員)

- ・ 現在、個人での活動と、きいろいタンポッ歩としての活動を行っている。個人としてはコープあいちに参加しており、そこでの活動についても記載している。
- ・ 親子の料理教室を行った。ピザ、おせち、クッキーなどを作った。
- ・ コープ健康クッキングを月1回行っている。今年度は行事食が多かった。生活習慣病予防で、減塩、免疫力アップなどをテーマとしている。4つのお皿（主食、主菜、副菜、汁物）をそろえて、バランスの良い食事を知ってもらい、実際に作ってもらっている。
- ・ きいろいタンポッ歩として、味岡市民センターでジュニアセミナーを3回行った。小学生中学年対象で、手作りおやつをテーマとして行った。
- ・ 今年度は7月に紙コップで焼けるシフォンケーキを作った。9月はパンケーキを作って、自分たちでフルーツをトッピングした。10月は簡単に作れるクッキーとチョコバーをひとりずつ作った。
- ・ 生活展でコープあいちとして食育活動の紹介と食育ゲームを行った。
- ・ ふらっとみなみで年4回クッキングを行った。今年度は5月、9月、12月、2月は明日、明後日に行く予定である。
- ・ 9月はケーブルテレビの取材があった。
- ・ 伊達巻きは、すり鉢で白はんぺんと卵をすって、フライパンで焼いて、巻いて作った。
- ・ 来年度も継続して行う。
- ・ 食育応援団の個人の活動として、5月に生活習慣病の予防と対策の講話を行った。

- ・今年度はじめて、北里児童館でコープあいちのつながりで、離乳食講座を開催した。
- ・離乳食は得意ではなかったが、勉強をした。お母さんたちがお互いに質問を投げかけあい、先輩ママが答えたり、自分が勉強してきた内容を答えたりした。
- ・1回きりの講座だったが、来年度も続けることができれば良いと思っている。
- ・減塩は小さいうちから慣れていくことが大切である。離乳食はとても薄味であるため、その味付けを続けていくと良い。子どもに新しく食べることを教えるときに、保護者も食生活を見直してほしい。他の離乳食教室などでも伝えてほしい。
- ・あいち健康チャレンジは、春日井保健所が企画したものである。手伝ったのは、野菜を350g量ることと、味覚の塩分チェックである。
- ・塩分チェックについて、高年齢になると味覚がにぶくなってくるため、年を取っているにもかかわらず、薄いと思って塩をたくさんかけてしまうことがある。そういったことに気をつけてもらうように伝えている。
- ・野菜の手量りについて、用意できる野菜が限られているため、昨日食べたものがないという方がたくさんいた。
- ・冬の時期は、おでんなどで食べるからといって大根を1本置くと、200gぐらいになってしまい、あと少し乗せて、350gにする人もいる。
- ・主婦の方が、自分が摂取できていると思っている野菜の量は、作っている量であることが多い。作っている量は家族の分であり、1人分ではないということを意識してもらっている。
- ・来年度も同じように活動していきたいと思う。
- ・みなさんが大きな団体でやっているのと比べると、自分は一市民としてできることをやっている。
- ・今年度はヘルスマイトの介護予防のクッキングと、骨太クッキング、クリスマスローズのアレルギーの勉強会も行かせていただいた。
- ・ヘルスマイトは広く勉強されていて、本当にいろんな話をしていただいた。あの値段であれだけのボリュームの食事がいただけることに驚いた。

(河和委員)

- ・私たちの食べる分は会費から出している。

(藤岡委員)

- ・パンフレットなどもいただける。ぜひみなさんも参加していただくと、他の方がどういった活動をされているか知ることができると思う。

(河和委員)

- ・お配りしている配布物は、何か行事をするのであれば、全国組織で日本食生活協会から必要数もらえる。わたしたちも市民の方と勉強しながら活動を行っている。

(長島会長)

- ・お互いを知らないといけないので、機会があればぜひ参加してみたい。
- ・続いて、近藤委員から説明をお願いします。

(近藤委員)

- ・保育園は自園調理なので、給食の時間に食育指導を行っている。
- ・野菜作りや皮むき体験について、とうもろこしの中身が黄色いこと、さやえんどうの豆がさやに入っていることなど、知らない子どもが多い。
- ・今は買い物と一緒に行かない子どもが多いので、スーパーに売っている野菜がそのまま畑で育っていることも知らない。野菜作りや皮むき体験などの経験は大事であると思う。
- ・調理員との関わりも大事にして、作ってくれる人への感謝の気持ちなども育てていきたい。
- ・保護者の方にも興味を持っていただきたいので、給食の展示や給食試食会をしている。
- ・幼稚園と同じようにクッキングが難しくなっている。衛生面について、子どもたちが自分で気をつけることがなかなかできない。しかし自分たちで作ったものをクッキングする喜びなど、クッキングをすることで得られるものもある。
- ・保育園にはクッキングマニュアルというものがあり、今年見直しを図った。餅つきでは、ついた餅は食べないというのは幼稚園と同じで、スイカ割りも、砂がついたりしないようにスイカを透明のビニール袋に入れて行った。
- ・生の野菜が食べられないという話があったが、保育園でも火の通ったものしか食べられない。いちごが採れても消毒して食べているので、味が少しちがってしまう。
- ・今やっていることが本当に自然のものを伝えているのだろうかと思うときがある。しかし、集団で生活していると制限が生まれてしまう。その狭間の中でどのようにしたら良いか考えている。
- ・子どもたちに食に対して関心を持ってほしい。しかし野菜を食べられない、野菜を見たことがない子が増えてきている。コンビニなどで売っているものが何からできているのかわからない、生の味に慣れていない子がいると感じるので、食に関心を持ってもらうのはなかなか難しい。
- ・園内で工夫しながらやっていけたらと思う。幼稚園と課題は同じである。

(山口委員)

- ・命を預かっている。もし何かあって死んでしまうという可能性がないとはいえない。

(近藤委員)

- ・クッキングをするときは健康チェック表を出してもらって、体調をチェックしている。

(山口委員)

- ・もともと体調が悪いのであれば、それが原因でおなかが痛くなっているのかもしれないが、幼稚園で出したもので体調が悪くなってしまうと大変なことになる。

(近藤委員)

- ・リスクをかかえてクッキングをすることになる。テーブルなども必ず消毒している。みんなで楽しみながら調理をすることができず、自分が作ったものは自分で食べている。

(山口委員)

- ・以前はクラスごとにちがうものを作ってまわしていたが、今は自分が作ったものを自分で食べてい

る。自分が作ったものであればお母さんも心配にならない。

(近藤委員)

- ・工夫しながら、少しでも体験ができるようにしている。

(長島会長)

- ・体験が重要だと食育基本法で言っておきながら、実際にはできないことが多い。

(山口委員)

- ・小学校でも調理実習が難しくなってくるかもしれない。

(藤岡委員)

- ・幼稚園児・保育園児と小学生では、自分の体の免疫力がちがう。
- ・明日、明後日のクッキングが心配になってきた。

(山口委員)

- ・流しそうめんをすることもできなくなった。

(近藤委員)

- ・流しそうめんはみんなでつきあうため、やるのは難しい。

(山口委員)

- ・お母さんからやってほしいという声はあったが、できなくなってしまった。
- ・保育園では流しそうめんをやったことがあるか。

(近藤委員)

- ・流しそうめんはやったことがない。みんなで順番に、はしでつついて取っていくのは危険である。

(山口委員)

- ・楽しかったのでもしばらくやっていたが、難しくなってしまった。

(近藤委員)

- ・クッキングマニュアルに基づきながら、制限はあるができる範囲内でやっていく。

(長島会長)

- ・続いて、若山委員から説明をお願いします。

(若山委員)

- ・去年の7月に人事異動があり、新たに環境対策課の委員となった。

- ・先ほど環境市民会議から報告のあったことと重なる部分があるが、補足しながら説明する。
- ・廃食用油の回収について、3つの小学校で月に1回実習している。ごみ政策課が中心となって、各市民センターや学校給食センター、保育園などで回収をしている。回収した油は、飼料、塗料、燃料などにリサイクルされている。
- ・一部は女性の会が中心となり、エコハウスで廃食用油せっけんを作って、公開講座をしている。
- ・市民環境講座の開催については、環境対策課が中心となって行っている事業である。
- ・市民環境講座の一部として食育に関する講座をやっている。「思いやりクッキング キッチン発 エゴからエコへ」という題を称して環境にもやさしい、エコ視点を取り入れた料理教室を開催した。
- ・全4回のうちの1つの講座であるため、参加者が限られており、参加したくても全4回は参加できないということであきらめた方もいるのではないかと思う。
- ・料理講座については、10名の参加があった。
- ・菜の花プロジェクトについて、毎年4月に菜の花畑を活用して自然と触れ合うことを目的とした菜の花フェスティバルを開催している。
- ・種から育てた菜の花を使って、小木小学校と光ヶ丘小学校で体験をしている。
- ・環境対策課としては、食を通じて環境にやさしいというところを目的として活動しているが、会員の減少、高齢化があり、やりたいことがやれていないのが現状である。

(長島会長)

- ・廃食用油がちゃんと有効利用されている。

(若山委員)

- ・ごみ政策課によると、毎年前年比で10%ずつ増えているとのことだった。積極的な広報やPRが進めば、さらに増えるのではないか。

(長島会長)

- ・続いて、野田委員から説明をお願いします。

(野田委員)

- ・資料に書いてある内容は、先ほど伊藤委員からお話していただいた。
- ・食育活動の普及啓発について、愛知県、尾張農林水産事務所の主催で案内が来るものは、学校に送って参加していただいている。子どもたちの活動や、先生方の研修会の案内がある。
- ・子どもたちの活動でいうと、「我が家のアイデア朝ごはんコンテスト」があった。小牧市からの応募は300ほどあり、優秀賞が1名出た。入選もいた。
- ・先生方の研修会として、学校給食、食物アレルギーなどの研修会がある。
- ・小牧市でも食物アレルギーに関する研修会を行っている。アレルギーは食育とは切っても切り離せない内容である。
- ・アナフィラキシーショックを起こす生徒が毎年いる。エピペンの打ち方を先生方が練習して、誰が対応するか、誰が持ってくるかといった内容の研修も行っている。
- ・嘔吐があった場合、粉をかけて取る、マスクをするなど細かい対応についても各学校で研修を行っ

ている。そこまでしないと子どもの安全は守れない。安心安全第一で活動を進めている。

- ・給食当番が消毒をしたり、給食の配膳室を毎日消毒したりするなど、食の安全に努めている。
- ・農業体験の推進について、一色小学校は梨農家にお手伝いしていただいていたが、高齢に伴い、今年で最後にしたいと言われている。
- ・新しく光ヶ丘小学校はぶどう園を作る計画を進めている。地域の方が参加していただけるということだが、できるまでに時間が掛かるので、1、2年目は現物がないというかたちになってしまう。
- ・農業体験について、地域で活動している方の力を借りての活動であるため、実施できる学校については良いが、高齢化などによってできない学校もある。
- ・ゴーヤについて、県の事業の一環として、各学校が緑のカーテンを作っている。昨年度は水がついてできず、今年度は猛暑で全然採れなかった。できる年はとてもたくさん採れる。

(河和委員)

- ・子どもたちに持って帰ってもらうなど消費するのが大変だったので、ぜひゴーヤを使った料理をお願いしたいとのことだったが、今年度は採れなかった。

(長島会長)

- ・アレルギーに関して、増えているということを知ることが、実際には増えていると感じているのか。

(山口委員)

- ・今までアレルギーの出ていなかった子が、豆は食べていないが、豆まきをしたら咳がとまらなくなって救急車を呼んだことがあった。保護者の方は今まで症状が出たことがなかったと言っていた。検査でアレルギーと出ていなくても、アレルギー症状が出る可能性があるのも、とても怖い。

(長島会長)

- ・保護者の方からアレルギーだと申請される方は増えているのか。

(山口委員)

- ・しっかり検査をしているから、増えている。

(近藤委員)

- ・卵と乳だけでなく、果物などさまざまなアレルギーを持つ子どもがいる。

(山口委員)

- ・ちょっとぐらいいは食べても良いと言われている子がいたが、少し食べただけで口が赤くなってしまった。数値が高くなくても、体調によって症状が出てしまう。

(野田委員)

- ・運動するとアレルギーが出てしまう子もいる。
- ・動物アレルギーもある。修学旅行で友達と鹿に触った手で自分を触ったことでアレルギーが出てし

まったということもあった。

- ・学校では生活管理指導表を医師に書いてもらって、アレルギーについてすべて管理した上で給食などを食べさせている。

(長島会長)

- ・アレルギーに対する意識を高めようというのはますます必要になる。食育推進計画の中にもある。

(河和委員)

- ・どうしてそんなにアレルギーが増えているのか。

(野田委員)

- ・それが分かっただけなのだが。

(河和委員)

- ・あまりにも清潔になりすぎているという話もある。

(山口委員)

- ・消毒で良い菌まで殺しているのかもしれない。

(野田委員)

- ・小さいころに一度に許容量を超えてしまうとアレルギーの症状が出てしまう子もいる。反対に、全く食べたことのなかったものを食べて、症状が出る子もいる。
- ・少しずつ食べて慣らして、食べられるようにすることもある。

(長島会長)

- ・野菜を食べようといっても、アレルギーがあるとそういうわけにはいかなくなる。

(倉知委員)

- ・アレルギーを持つ子は毎日お弁当を持っていったと思うが、今は学校給食で別調理などをして対応しているのか。

(愛野委員)

- ・除去食というかたちで、乳と卵を除去した食事を月2回、そのほかにも1ヶ月に7割くらいは乳と卵を使っていない給食がある。ただ、小麦のアレルギーを持つ子もいて、家からおかずを持ってきて食べている子もいる。

- ・最近外国の方が増えてきて宗教上の問題で食べられないという子もいる。無配膳だからといって一概にアレルギーとはいえない。

(倉知委員)

・アレルギーの子を持つ保護者が、学校給食のメニューの中で使われているものを一生懸命調べて、気をつけているということを聞いたことがある。

(野田委員)

・生活管理指導表を出された家庭には詳細な献立表を渡している。給食を食べる日、食べない日、除去する日を教えていただいて、学校給食課と調整して給食を出してもらっている。とても大変な作業である。

(愛野委員)

・クラスの担任がアレルギーの子を把握して、保護者と相談して何が食べられるかチェックし、取り違えのないように食べさせている。現場もとても大変である。

(河和委員)

・先生は気持ちの休まる時がない。

(長島会長)

・最後に、愛野委員から説明をお願いします。

(愛野委員)

- ・学校教育課と栄養教諭・学校栄養職員が取り組んでいる活動を紹介する。
- ・いきいきこまきでの体験ブースの出展では、「毎日朝食を食べますか」などのアンケートを実施した。「野菜を食べていますか」などの質問もして、食べていない方にはレシピを配布した。
- ・給食だよりについて、毎月出しているA3版の献立表の余白に、小牧由来のメニューなどの紹介を行っている。
- ・食に関する指導について、小学5年生などを対象に、地産地消や牛乳などについて説明している。全学校、全クラスに指導ができないことが課題である。
- ・各学校で給食の情報をホームページに載せている。
- ・学校給食における地場産物や郷土料理の活用について、6月の「愛知を食べる学校給食の日」の前後1週間ぐらいの間で、愛知県産の食材を使った給食を出している。11月の半ばには「愛知を食べる学校給食週間」があり、八丁味噌など愛知県産、小牧産のものを使った給食を出している。
- ・食品ロスの関係で、給食の牛乳について、昨年度までは配達していた生乳メーカーが、翌日空き瓶と一緒に残った牛乳を持って帰っていた。しかし、平成30年度から愛知県全域で、残った牛乳は産業廃棄物だということで回収してもらえなくなり、産廃業者に委託料を払って回収してもらうことになった。
- ・今は給食を無理やり食べさせられないので強要はできないが、牛乳の残りが多い学校と少ない学校がある。来年度、減らすことはできないかと思っている。
- ・昨年度からJAにご協力いただき、野菜(大根、さつまいも)を給食で使っている。可能であれば、もっと拡大していきたい。

・名古屋コーチンなどについて、校内放送でアナウンスをしていて、知ってもらおうということを地道にやっている。

(長島会長)

・地産地消を広めようという食材調達は、愛知県内、小牧市内から調達しているのか。

(愛野委員)

・JA以外のところでも今まで取引していた農家も、高齢で出せなくなったところが出てきた。今年からJAと新たな開拓ができれば良いと思っている。

・品質について、市場で買ってくる状態のようなものということにこだわったり、量について考えると、取引できるところに制限が出てくると思う。

(長島会長)

・食育活動としてはできるだけ地産地消をしたいと思うが、実際にやろうと思うと制約が出てくる。

(愛野委員)

・給食センターが3つあるので、仕入れる量がとても膨大になる。大規模に専業でやっているところでないといけない。

(長島会長)

・みなさんの意見の中で、問題点の方が多く出てきた。

・今日欠席の方の説明をお願いします。

(事務局)

・今日欠席の委員から食育に関する取り組み一覧をいただいているので、順に代表的なものを説明する。

・(生涯学習課) 夏休み親子食講座や小牧の伝統食講座などを開催した。要望があれば開催するかたちをとっているため、必ずしも食育に関する講座が開催されるとは限らない点が課題である。

・(歯科医師会) 歯の健康センター(歯ピカピック)の開催については、参加者の増加のための対策が必要である。

・学校、保育園、幼稚園での歯科検診、保健指導、健康教育について、施設ごとの保健指導の実施が必要である。

・よい歯の表彰『健口大賞』を実施している。

・保健センター、小牧市養護教諭勉強会、寿学園、小牧市の自主研修会、保健連絡委員の勉強会、在宅介護サポートセンターの研修会などで食育を含めた講演会を数多く行っている。

・その他の問題点として、高齢者の欠損歯数が多いことによる咀嚼機能の低下で、カロリーオーバーの栄養不足となり、認知症も増加する点がある。

・心が弱くなると栄養面が弱くなり、身体が弱くなって、要介護となる。

・それを防止するには、成人期(20代~50代)の虫歯・歯周病の予防対策、高齢者の欠損歯数を減

少させる必要がある。それが健康寿命の延伸につながる。

- ・(愛知県食品衛生協会小牧支部) 食育推進協力店の推進講習会の開催、パンフレット配布について、3010 運動・食品ロスのチラシも一緒に配布されている。
- ・食品営業関係従事者の検便・食品の細菌検査について、情報提供できるようにすることが課題である。
- ・(小久保委員) ぷらむはうすを営業されている。そこでこまき子ども食堂を実施している。中部大学の学生にご協力いただいて、子どもと触れ合ったり、調理を手伝ったりしていただいている。子どもの欠食と居場所づくりとして、開催場所がさらに必要である。
- ・手作り味噌講習会なども行っている。
- ・(小牧市保健センター) 取り組みとして、パパママ教室、離乳食教室、初期ごっくん教室、後期かみかみ教室、歯みがき教室、ヤング健診の結果説明、家族の健康を考える食生活講座として、ヘルスマイト養成講座、生活習慣病の予防相談、健康教育、お口元気はつらつ教室、健康日本 21 こまき計画推進部会などがある。
- ・パパママ教室は、妊娠中の栄養バランスのとれた食生活を考えるものである。
- ・離乳食教室、初期ごっくん教室、後期かみかみ教室は、可能な限り多くの対象月齢の方に受講してもらうことなどが課題である。
- ・(愛知県尾張農林水産事務所 農政課) 食育推進ボランティアの登録、情報共有について、6月～7月に新規募集をしている。毎年6月の食育月間での取り組みとなっている。
- ・野菜の摂取量向上のための料理講習会は、名古屋と刈谷でそれぞれ行われた。
- ・急いでの説明となったが、今日欠席された委員の報告は以上となる。

(長島会長)

- ・これで、議題(1)の平成30年度小牧市食育推進活動の報告及び来年度の小牧市食育推進活動については終了する。
- ・次に、議題(2)野菜摂取量の増加に向けた取り組みについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

- ・議題(1)でも、野菜摂取量の取り組みについて、委員からお話をいただいた。その中で、1日の野菜摂取量が少ないこと、かといって給食を無理やり食べさせるのはできないこと、0-157の関係で給食での生野菜の提供が難しいというようなお話をいただいた。
- ・第3次小牧市食育推進計画には「野菜摂取量を増やす取組の推進」、「食物アレルギーへの理解の向上」、「食品ロス削減の普及啓発」の3本柱がある。平成29年度から第3次食育推進計画が始まったときに、会議の中で1つの目標として「野菜摂取量を増やす取組」を挙げた。
- ・しかし、野菜摂取量について、愛知県は男性が全国最下位、女性が全国で3番目に低い値であり、野菜摂取量が少ない状況にある。
- ・農政課としては、野菜摂取量を増加させるために、まずは野菜を知ること、エビ芋など地元でどういふものを作っているのかを知ることが必要である。地元の野菜を取り入れるために、小牧市生活改善実行グループや中部大学と協力して料理教室を開催したり、市民まつりやいきいきこまきで野菜の地産地消を呼びかける意味も含めて野菜を販売している。

・みなさまからすでにご意見はいただいているが、さらに野菜摂取量を増やすためのご意見があればいただきたい。

(長島会長)

・すでにかなりたくさんお話は出たかと思うが、委員からこれだけは言っておきたいという野菜摂取量を増やすための取り組みや、来年の取り組みについて、何かご意見はあるか。

(委員)

・特になし。

(長島会長)

- ・それぞれ制約がある中でも、取り組んでいただきたいと思う。
- ・これで議題（２）野菜摂取量の増加に向けた取り組みについては終了する。
- ・最後に「その他」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局)

・平成 29 年度から食育推進計画が始まり、2 年が過ぎた。「野菜摂取量を増やす取組」についてご協力いただきお礼申し上げます。来年度も引き続き、できる範囲になるかもしれないが、取り組んでいただきたい。

・野菜摂取量の増加だけでなく、「食物アレルギーへの理解の向上」「食品ロス削減の普及啓発」の 2 つについても、積極的に取り組んでいただきたい。

(長島会長)

・他に質問や意見はあるか。

(委員)

・特になし。

(長島会長)

・それでは、進行を事務局にお返しする。

(事務局)

・以上をもって、平成 30 年度第 2 回小牧市食育推進会議を終了する。